



棟方志功が裏彩色を活用した理由

板の声を聞き、板の命を彫り起こそうとした板画家の棟方志功（1903-1975年）は、紙の持つ白と墨の持つ黒の対比を、絶対的なモノと捉えながらも、赤鉄鉱が原料の代赭や藍銅鉱が原料の群青を用いて赤・茶・青・緑・紫などの「裏彩色」の技巧を採用している。

日本で開花した木版画の浮世絵には、絵師を中心に彫り師・摺り師も協力して創始されたもので、錦のように精緻で美しいことから「錦絵」と呼ばれる多色刷りの版画もある。

棟方の版画には、錦絵のような精緻な美は見られないが、一気呵成に版木を彫ることによって生まれる迫力のある生々しさや、圧倒的な存在感・ボリューム感が備わっている。

棟方は、身体の黒い人物には代赭、身体の白い人物には群青の裏彩色を用いている。

一人で絵師・彫り師・摺り師の役目を担う創作版画の人気の上昇や、柳宗悦の助言、出雲の人間国宝の紙漉き、安部榮四郎の協力による薄い特殊和紙の完成、絵具が紙の裏から表に滲み出る柔らかな色調には版画と同様に「他力による美」が見られることから、裏彩色を活用している。

なごやかで柔らかい、ほのぼのとした気分が生まれている。 (吉村耕治)

●色彩データ・ライブラリの活用 -3

今回、中国の芸術大学で光の体系のXYZ表色系を教えました。中国では、色彩体系が確立されていないため、様々な色彩体系をアレンジして使われているのが現状です。

XYZ表色系は、色彩講師の先生も知らない先方々が多く、美術系の大学ではまだ教えられない先生が少なく事わかりました。

講義の流れとして、XYZ表色系を語るには、まず、目の話をして、3刺激値RGBから、等式関数の求め方で、なぜRGBが使いにくくXYZになっていく理由を、グラフを見せて、負の値があり虚色の色は使いにくいので、XYZができた流れを解説しました。等色数の求め方なども数式によって説明しました。永田名誉会員のパワーポイントには、多くの図式が載ってる上に、グラフでの表記は、言葉の説明の時に理解しやすいので、要点などは伝えることはできました。

しかし、とにかく難しいと言われているXYZ表色系は、今回はどのような時に使われるかという例題がない事が、ネックになっています。

応用例を実際に取り上げてパワーポイントを作ればより理解してもらえる授業になったかと考察しました。 (田森恭子)

●大辞泉ひろいよみ 47 一か・き

顔色：がんしょく。かおいろ。また、感情の動きの現れた顔のようす。

汗青：昔、中国で、火にあぶって汗のように染み出る油を取り去った青竹に文字を書いたところから、記録。史書。汗簡。殺青。

寒紅：寒中に作った紅。色が鮮明で美しいとされる。寒の紅。丑紅。

雁来紅：雁の来る頃に葉が紅色になるところからハゲイトウの別名。

橄欖色：かんらんしょく。オリーブ色。

顔料：水や油に溶けない白または、有色の不透明な粉末。分散状態で物を着色する。鉛丹などの無機顔料と、レーキなどの有機顔料に大別される。印刷インキ・塗料・化粧品・プラスチックの着色剤に広く用いられる。絵の具。



黄：色の名。三原色の一つで、菜の花、ゆで卵の黄身などのような色。きいろ。イエロー。

黄なる泉：あの世。冥土。

黄なる涙：嘆き悲しんで流す涙。多くは獣の涙にいう。

黄色：きいろ。三原色の一つで黄の色。また、その様。大判・小判などの色。山吹色。

*大辞泉：小学館発行国語辞典 (永田泰弘)